

実践『ペルソナ』通信 (No. 113)

「軽食の持ち歩き」に関する調査 Side-*Be*

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大学生の「軽食の持ち歩き」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。実践『ペルソナ』通信 Side-*Be*とは、写真観察を行い、実態を考察した調査レポートです。

総括

今回の調査結果から、軽食を持ち歩いている人のほとんどが、個包装のものや手のひらサイズの小さなものを持ち運んでいました。その中でも洋菓子をもち歩いている人が 13 人（54%）、清涼菓子をもち歩いている人が 8 人（33%）と半数以上を占めていました。スーパーやコンビニエンスストアでも洋菓子コーナーは広く、手に取りやすいからだと考えられます。他にも清涼菓子をもち歩いている人は 8 人（29%）おり、多い印象を受けました。手軽に食べることができ、気分をリフレッシュできるものが好まれていました。

調査結果のポイント

（1）持ち歩く軽食には洋菓が多い

24 人に調査をおこなった中で洋菓子を 1 つでも持参している人は 13 人と半数以上という結果になりました。持参している軽食は 1 つではなく、複数個をまとめて持ち歩く人が多い傾向がみられました。

（2）持ち歩く軽食は手のひらサイズのものがほとんど

写真からもわかるように、手のひらサイズの小さなものを軽食として持ち歩いている人が多くみられました。バッグに入れやすいものや友人とシェアしやすい軽食が好まれる傾向でした。

（3）軽食にはしょっぱいものより甘いもの

軽食の中でもグミやアメ、クッキーといった甘いものを持っている人が多くみられました。甘いものを持ち歩く理由として疲れた授業と授業の合間に食べる軽食として好まれていると考えられます。

(4) 封ができるものや食べきれない軽食の傾向あり

全ての軽食に共通することとして、食べきれないものや残っても保存できるものでした。食べきれないものと保存できるものの割合はちょうど半々の結果となりました。

調査概要

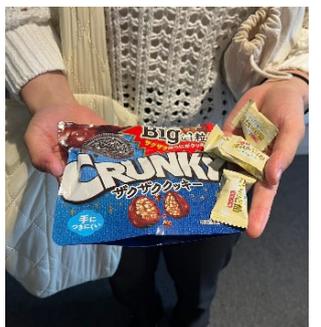
- 調査対象：実践女子大生（全学年、全学部）
- 調査方法：フィールドワークによる写真撮影および対象者観察
- 調査期間：2023年7月
- 調査場所：実践女子大学渋谷キャンパス

調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 田地美月・伊藤杏莉・廣瀬萌奈・中島鈴

写真

【洋菓子】



【米・パン】



【清涼菓子】



【洋菓子と清涼菓子】



【洋菓子と和菓子】



【和菓子】



【その他】



調査後記

今回の調査を通じて、女子大生は学校がある日にはほとんどの人が軽食を持ち歩いており、持ち運びやすく手軽に食べられるものが好まれる傾向がありました。項目としては洋菓子が多くなっていました。また Be 面の写真撮影を依頼した際、大半の人が持ち歩いており、特に午前中はほとんどの人が所持していることが多かったです。ただ持ち歩いているものとしては、A 面調査では洋菓子の次に多いのは米・パンであった一方、Be 面調査では洋菓子の次に清涼菓子をもち歩いている人が多くなりました。その要因については、調査するタイミングが軽食を食べ終わっている午後に偏っていたためだと考えられます。

今回の調査で多くの学生の方に快く回答・写真の提供をしていただいたことで、無事報告書を完成できました。ご協力いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今回調査の経験を今後の調査分析に活かせるよう、メンバー一同精進致します。